

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 5 月 15 日現在

機関番号：34301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04170

研究課題名(和文) 東南アジアサッカー市場における移民選手の戦略とネットワーク

研究課題名(英文) Migrant Football Players in Southeast Asia: Their Strategy and Network

研究代表者

阿部 利洋 (Abe, Toshihiro)

大谷大学・社会学部・教授

研究者番号：90410969

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：経済成長と若年層の消費市場参入を受けて、東南アジアのサッカー市場は急速に拡大している。本研究では、その新興市場における(主としてアフリカ出身)移民選手のサバイバル戦略とネットワーク構築に着目した。現地調査を通じて明らかになったのは次の4点である。選手らは域内の複数リーグを年度毎の移籍先として認識し、継続的に情報収集している。所属クラブをまたいだインフォーマルな共同練習を継続し、移民選手としてのプレーのアイデンティティとレベルを保っている。移籍時に「外国人選手」に期待されるイメージを活用する工夫をしている。市場の発展に伴い、移民選手の出身地域ごとの競合がはげしくなっている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、サッカー移民に関する社会学的研究としては、ヨーロッパ市場におけるアフリカ人選手を対象とし、移民の送り出し国と受け入れ国の経済格差とそれに起因する移民選手の否定的環境を批判的に検討するものが多かった。しかし、本研究が対象とした新興市場には、制度的な整備が十分でない一方で移民選手らが能動性を体现する余地が散見され、発展途上のリーグに独特の性格を付与している実態が認識された。また、いわゆる移民の「南・南移動」による市場発展の事例として新興リーグの現状を位置づけることができることも明らかになった。

研究成果の概要(英文)：In response to African football players' growing global presence, sociological research on these players has been rapidly accumulating. Although much such literature has placed this phenomenon within the framework of economic disparities between European and African societies, this research project instead explores the strategies and networks of migrant players, with a particular focus on African players in Southeast Asian leagues, who comprise the majority of the region's migrant players. In exploring questions on the actions of these players, this research has provided the following findings: (1) players' gathering of information on the leagues of neighboring countries and their circulation in their transferring carriers; (2) players' informal pan-African inter-club ties; (3) players' strategic reactions to clubs' and fans' role expectations for foreign players; and (4) the current emergence of competitive circumstances among migrant players in line with their regions of origin.

研究分野：社会学

キーワード：サッカー 移民 アフリカ人 東南アジア

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

これまで世界のサッカー市場の中心地はヨーロッパであり、それゆえ移民選手に関する社会学的研究の多くが同地域における現象を考察してきた。I. ウォーラー・ステインやS. サッセンらの議論を参照する移民研究の枠組みでは、こうした選手は途上国から先進国へ流れる労働者と同様に認識され、その上でプロスポーツ選手という職業的性格から商品としての役割を課される存在として描かれてきた。その一方で、非ヨーロッパあるいは「南」の新興工業国におけるサッカー市場の拡充に伴い、そこで活躍する移民選手に関する研究が少しずつ現れ始めた。ここでは、移民選手は特殊技能を有する比較的自由的な労働主体として描かれる傾向があり、東南アジア地域の各国リーグにおいても、同様の実態が確認できるのではないかと思われた。

2. 研究の目的

地域的な経済成長と若年層の消費市場参入を受けて、東南アジアのサッカー市場は、近年急速に拡大している。その動向は、外国人選手の新たな移籍先として脚光を浴び、また日本企業の積極的な投資先として浮上する形で現れている。従来、サッカー移民に関する社会学的研究としては、ヨーロッパ市場におけるアフリカ人選手を対象とし、移民の送り出し国と受け入れ国の経済格差とそれに起因する移民選手の否定的環境を批判的に検討するものが多かった。それに対して、本研究では東南アジアという新興サッカー市場における移民選手に着目し、彼らの能動的なサバイバル戦略と独特のネットワーク構築に焦点をあて、台頭する東南アジアサッカー市場の動態を実証的に描出することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、東南アジアという新興サッカー市場における移民選手の能動的なサバイバル戦略と独特のネットワーク構築を、エスノグラフィックな手法によって詳述することを第一の目的とした。また移民選手の側からの就労環境に対する能動的な働きかけや、それによるホスト社会側の変化を、社会現象としてのサッカー・ビジネスという観点から考察することを目指した。具体的には、タイ・カンボジア・ベトナム・ミャンマーのメコン川流域4か国のリーグに注目し、選手および関係者へのインタビューと参与観察を通じた調査研究を行う計画とした。

4. 研究成果

メコン地域各国リーグに所属する(主としてアフリカ出身の)移民選手から、同地域のリーグに参入した動機と経緯、これまでに所属した他国リーグとの比較、移籍交渉と手続きの実際、チーム内の人間関係、プレースタイルをめぐる適応戦略、生活環境への適応、否定的経験(怪我、事故、詐欺、差別等)とそれへの対処、各自を取り巻く環境の観察、出身国との関係、将来の展望と準備等の諸点について、継続的な聞き取りを行い、またインフォーマルなトレーニングの場において参与観察を行った。

現地調査を通じて明らかになったのは次の4点である。(1)選手らは域内の複数リーグを年度毎の移籍先として認識し、継続的に情報収集している、(2)所属クラブをまたいだインフォーマルな共同練習を継続し、移民選手としてのプレーのアイデンティティとレベルを保っている、(3)移籍時に「外国人選手」に期待されるイメージを受け入れ、体現する工夫をしている、(4)近年の急速なリーグ環境の発展によって、外国人枠をめぐる東アジア・南米・東欧出身選手との競合がはげしくなっている。以下、それぞれについて説明を加える。

(1)メコン地域の国内リーグに所属するアフリカ人選手の経歴をみれば、その多くが既に東南アジアの他国のリーグでプレーした経験を持っている。彼らは情報交換しながら年度ごとの移籍シーズンに備えているが、ある国のリーグに所属していても、同時に他国のリーグへの移籍を念頭に置いている。たとえばタイ2部リーグのクラブからカンボジア1部リーグのトップクラブへ移籍することは、リーグの規模やレベルを考えると否定的にみえるかもしれないが、必ずしもそうではないと説明される。というのも、メコンクラブチャンピオンシップのように、メコン地域諸国(タイ、ベトナム、カンボジア、ミャンマー、ラオス)のリーグ優勝クラブによる大会などがあり、カンボジアの上位クラブに所属していれば参加の可能性が高まり、そこで結果を出せば隣国リーグのスカウトの目にとまるかもしれないからである。

(2)国内リーグの各クラブに散らばるアフリカ人選手がインフォーマルに集まり、トレーニングする様子は、部外者からすると「試合時に敵対するクラブに所属する者に手の内を見せる」否定性があるのではないかと思われるが、少なくとも次の2点においてメリットのあるものだと説明される。一つは、移民選手が割り当てられることの多いポジションの影響から、ゴール前での決定的な場面で相対するのが外国人(アフリカ人)選手であるケースが多く、そこで対応できるスピードや試合勘を普段から維持しておくことが求められるという点。もう一つは、彼らが基本的に単年度契約で所属している事情が関係する。つまり、今季は敵同士であっても、来季にチームメートとなる可能性がある。より上位クラブに所属するアフリカ人選手が自分を推薦してく

れば、外国人枠の空きに収まる可能性も高くなる。そのために自分の力量をインフォーマルな場で見せておくことは意味がある、と考えられている。言い換えれば、契約事情からプレースタイルや普段の練習光景が影響を受けるということでもある。

(3)選手らは、「アフリカ人選手」のイメージに期待される役割を受け入れ、それを体現しようと努める一方で、そのようなステレオタイプがある現状を活用しようともしている。個々の能力で判断すれば、屈強なアジア人もいるし、繊細で柔らかいプレーを得意とするアフリカ人もいるわけなのだが、ここには、ある意味で「聴衆から期待される役割を演じる」要素も含まれていると考えるべきである。つまり、選手たちは短い期間でクラブ側の期待に応え、成果を出さねばならないプレッシャーに常にさらされているが、仮にステレオタイプであっても、ある種の役割期待が明確であれば、それにそってスタイルを打ち出すことは効率的な戦略なのである。身体的に頑健で、(心身両面で)タフな環境に適応し、連携を気にせず一人で局面を打開でき、東アジア・東欧出身選手よりも低いサラリーを受け入れてくれる。こうした役割期待が、クラブ側・選手側双方にとって合理的なコミュニケーション・ツールとなっている実態も把握された。

(4)他方、たとえば 2013 年以降のタイリーグにおけるトップスコアラー出身地域の推移に如実に顕れているように、近年、市場規模が拡大するなかで、以前「外国人助っ人」といえばアフリカ出身選手であったような状況からの変化も生じている。「サッカーの本場である南米・欧米」のイメージを体現するブラジルやスペイン、東欧出身選手が急増すると同時に、「アジア戦略」を展開する日本から移籍するケースも増えている。かつてアフリカ出身選手がレベルの底上げしてきた東南アジアの国内リーグにおいて、移民選手たちによるどのような戦略的なふるまいが生み出されるのか、継続的に注視する必要がある。

上記(1)～(4)の意義は以下のように整理できる。

1. スポーツ移民の社会学的研究では、先進国市場における「南」の世界出身の選手の適応過程に注目される傾向があった。たとえばヨーロッパのサッカー・リーグにおけるアフリカ出身選手を考察する研究が典型的なものである。それらに対して、本研究では、「南」の方向へ移動する選手に着目し、その活動の実態、特徴を実証的に明らかにした点に独自性がある。

2. イギリスを中心に発展してきたサッカー社会学においては、従来、議論の中心を占めてきた論点が、ファン・サポーターの社会階層の変化(労働者階級から中産階級へ)、フリーガンに代表される暴力・犯罪との接点、「男」のスポーツであった(ジェンダー的偏向のあった)サッカーの担い手の変容、テレビを代表とするメディアによるビジネス介入の影響等であるとされている。本研究は、移民選手の役割と戦略という比較的新しい論点を掘り下げた点で同分野の議論の拡大に寄与したと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 阿部利洋	4. 巻 36
2. 論文標題 カンボジア・サッカーのグローバル化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 真宗総合研究所研究紀要	6. 最初と最後の頁 31-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 阿部利洋	4. 巻 18
2. 論文標題 東南アジア・メコン地域におけるアフリカ人サッカー選手 役割期待・リスク・戦略	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 フォーラム現代社会学	6. 最初と最後の頁 31-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部利洋	4. 巻 64巻1号
2. 論文標題 サッカーを取り巻くメタゲーム ポストモダン・サッカー市場におけるアジア戦略	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ソシオロジ	6. 最初と最後の頁 117-127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 阿部利洋
2. 発表標題 東南アジア・サッカーリーグにおけるアフリカ出身選手の適応戦略
3. 学会等名 第92回日本社会学会大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Y.Mine, S, Cornelissen (eds.), T, Abe	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Palgrave macmillan	5. 総ページ数 290
3. 書名 Migration and Agency in a Globalizing World: Afro-Asian Encounters	

1. 著者名 今泉隆裕・大野哲也編、阿部利洋	4. 発行年 2019年
2. 出版社 嵯峨野書院	5. 総ページ数 357
3. 書名 スポーツをひらく社会学 歴史・メディア・グローバリゼーション	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----